

共に生き共に支え合う地域づくり

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らしていきたいと願っています。
瀬戸内市の高齢化率（65歳以上の皆さんが占める割合）は24.98%（平成17年4月1日現在）。
高齢化が進む中、地域での支え合いはますます必要になってきます。
そのような中で、積極的にふれあいや支え合い活動を行っている地域があります。
皆さんの地域はいかがですか？



子どもから高齢者まで 地域ぐるみで福祉のむらづくり推進

長船町福岡地区

高齢者福祉のむらづくり
に早くから取り組んだのは、
長船町福岡地区の7町内会
（現在は10町内会）。

平成4年6月、生き生き
と安心して生活できる福祉
のまちづくりに向け、福祉
ボランティアが中心になり
『チャレンジ福岡』を発足。
楽しく交流し、趣味などを
通して生きがいを高めよう
と高齢者の集いなどを企画
参加者の数も次第に増えて
いきました。

この活動に弾みをつけた
のが、『地域ぐるみの高齢
者福祉のむらづくり事業』。
これは平成5年6月、県か
らモデル指定を受け、取り
組んだものです。福岡集會
所、福永コミュニティハウ
ス、備前福岡郷土館、福岡



グランドゴルフで世代間交流

ふれあいセンターを拠点に、
施設をフル活用。以来、集
落全体を福祉施設と考え、
地域住民・関係機関・団体
などが一体となり地域の中
で支え合い、いつまでも住
み慣れた地域で安心して暮
らしていけるよう取り組ん
でいます。

平成8～10年度、長船町

社協の『福祉のむらづくり
事業』モデル指定地域にな
りました。援護が必要な人
の状況やニーズの把握など
に務め、実態に即したあり
方を役員会などで話し合い、
より多くの皆さんの参加を
呼び掛けました。世代間交
流も積極的に行いました。

平成11年度以降も同事業
を継続し、現在に至ってい
ます。

「福祉のむらづくりがう
まくいった背景には、盆踊
りやだんじりなどの伝統行
事で、幼児からお年寄りま
で各世代の人が寄る土台が
あったこと。幼児からお年
寄りまで全体で動くという
のが、福岡地区の特徴」と、
平原順二さん（62歳）は話
します。



健康づくりふれあい教室の一場面。ビデオを見ながらみんなで体操

「生きがいづくり、ふれ
あい交流、社会参加、予防
の福祉という観点で、みん
なが共通理解をした上で進
んでいった。だれでも取り
組めることを実践したので、
リーダーも増え住民主体で
自主的に動けるようになった」。立ち上げ当時から積
極的に推進してきた金井登
志子さん（70歳）が振り返

ります。現在も、
福岡地区の各世
帯に福岡福祉の
むらづくりのお
知らせを配布し、
行事予定や取り
組みを紹介して、
みんなで情報を
共有しています。
「高齢化率が
高くなっている
傾向にある。少
子化・高齢化が
進むと何が必要
になってくるの
か、住民のニー
ズをつかみ、み
んなが地域で安
心して健やかに年をとって
いけるよう努めたい」と、
福岡福祉のむらづくり会長
の東原孝至さん（69歳）。
地域の皆さんが企画し、
毎年福岡福祉まつりを開催
するほどパワーのある福岡
地区。7月の行事予定表に
も、ふれあい・交流、サロ
ン活動など、予定がびっし
りと書き込まれていました。